

第3回 石川町地域公共交通活性化協議会

日時：平成25年12月19日（木）14：00～

会場：石川町共同福祉施設 2階 会議室

【議事次第】

1. 開会
2. あいさつ
3. 報告・協議事項
 - (1) 現況データの整理について
 - (2) 実施事業と実施主体（案）について
 - (3) 町民外出アンケート調査結果について
4. その他
5. 閉会

【出席者】

所属	役職	氏名	備考
石川町	町長	加納 武夫	
福島交通株式会社	石川営業所長	佐藤 秀男	
有限会社野本観光バス	代表取締役	野本 和義	
マルイチ新石川タクシー 有限会社	マルイチすかがわタ クシーセンター長	小松 正朝	
有限会社三光タクシー	代表取締役	野崎 勇雄	
東日本旅客鉄道株式会社 水戸支社	水郡線営業所長	箕輪 敏夫	代理 助役 丹治 春夫
公益社団法人福島県バス 協会	専務理事	千代谷 俊行	欠席
一般社団法人福島県タク シー協会	県南支部長	金澤 寛二	欠席
国土交通省東北地方整備 局郡山国道事務所	調査課長	佐藤 幸喜	代理 専門官 吉家 政俊
福島県県中建設事務所	主幹兼企画管理部長	磯松 教彦	
国土交通省東北運輸局福 島運輸支部	主席運輸企画専門官	兼平 悟	
ふくしま自治研修センタ ー	総括支援アドバイザー 兼教授	吉岡 正彦	
全国自動車交通労働組合 連合会福島地方本部	書記長	大槻 政好	欠席
福島県県中地方振興局	県民環境部副部長兼 県民生活課長	渡邊 昌明	
石川警察署	地域交通課長	平子 誠	
石川町区長会	会長	鈴木 健一	
石川町商工会	副会長	橋本 栄一	代理 事務局長 矢内 秀明
石川町社会福祉協議会	副会長	永沼 栄一	
石川町長寿会連合会	山橋地区長寿会連合 会事務局長	高原 栄紹	
石川町婦人会連絡協議会	会長	小林 ヒサ	
石川町PTA連絡協議会	会長	佐川 正美	
福島県立石川高等学校	校長	安瀬 一夫	代理 事務長 本田 康博
福島県立石川養護学校	校長	大関 彰久	代理 教頭 江見 浩二
学校法人石川高等学校	校長	森 涼	欠席

【議事録】

年末、お忙しい中ご参加いただきまして本当にありがとうございます。

それではさっそく、本日の会議の方を始めてまいります。開会の言葉として、吉岡副会長お願いします。

1. 開会

2. あいさつ

吉岡副会長 (ふくしま自治研修センター)	みなさん、こんにちは。今日はあいにくの足元の悪い中ですが、本当にたくさんの方々にご参加いただきありがとうございます。 今日は3回目ということで、11月26日に第2回の協議会において、みなさんからの活発な議論をいただきましてありがとうございました。特に、養護学校の方からは、生徒のバスの便をもう少し良くして欲しいというようなご要望をいただき、あるいは住民の皆さんからも、乗る便は限られているのですが、やっぱり乗合バスは重要な交通手段なので、週一便でも良いから営業を継続して欲しいというようなこととか、あと、日常の買い物の便の確保、そんなことも配慮していただきたいというような、いろんなご意見いただきまして、活発な意見交換ができました。今日はそれを経て、事前に皆さんにご配布させていただいた資料を含めて、計画編として、どういった改善を町の公共交通にしていくのかというところの議論が中心になります。いよいよ核心というところがございます。スケジュールとしては、来年の1月に第4回ということで、締めめの委員会を編成しているようがございます。今日も引き続き活発なご意見をいただけますようにどうぞよろしく願いいたします。
加納会長 (石川町長)	みなさん、こんにちは。今日は大変ご苦労さまです。一言ご挨拶をさせていただきます。 先ほど副会長からお話しをいただきました通りであります。あと、年末まもなく10日ぐらいで新年を迎えることとなります。本当にみなさんお忙しいところをたくさんお集まりいただきましてありがとうございます。 当協議会では石川町の地域公共交通の総合連携計画の方向性等についてご提案をいただきます。そしてまた、これから石川町もいよいよ高齢化の時代を迎えてまいります。小中学校の統合や、そしてまた役場や庁舎の移転等の問題など、そうした将来を見据えながら必要になった接続可能な公共交通環境をご検討いただこうと思って、どうか今日は忌憚のないご意見を、そしてまたご協力のほどをお願い申し上げてご挨拶と代えさせていただきます。

○吉岡副会長（ふくしま自治研修センター）

3. 報告・協議事項

- (1) 現況データの整理について
- (2) 実施事業と実施主体（案）について
- (3) 町民外出のアンケート調査結果について

（事務局より資料説明）

加納会長 (石川町長)	みなさん、説明は分かりましたか？なかなか難しく理解するのに時間がかかりそうですが、もう少し要点を絞って説明してください。聞いている人がどういう聞き方をしているのか見ながら説明しないとダメです。自分がわかっている相手は全然理解していない、そういうようなやり方を改めてもらいたいです。 みなさん、とりあえず出席はいただいたのですがご理解いただけましたか、意見等
----------------	---

	<p>ございますか？</p> <p>今の説明では意見がないようですので、吉岡会長にアドバイスも兼ねてポイント絞って補足していただけないでしょうか。</p>
吉岡副会長 (ふくしま自治研修センター)	<p>今日は前回の現状の課題を踏まえて計画編ということで話題を提供いただいたので、確かに町長が言われるように、よく掴めないというところもあると思うので、まずは少し質問をさせてください。</p> <p>おそらく前回の第2回協議会も踏まえると、なかなかバス・公共交通を利用される方は町民の皆さんの中では少ないということですが、少ない中でも利用していく上で必要不可欠という手段になってくるというところに対して、今後どうそれを考えていくのかということだと思います。</p> <p>もう一回簡単におさらいで結構なのですが、要は現状に対してこれからどういうことをやっていくという風に考えているのか、そのエッセンスだけで結構ですので、もし来年以降、具体的にこんなことというのがあれば、そういう話題を出していただけると、みなさんもピンと来やすいのかな、と思います。</p> <p>その辺もう一回ちょっと重なっても良いので、要点を報告いただけますか？</p>
事務局	<p>はい、では、今ご質問いただきましたのでポイントを絞って、今の考え方また事業についてご説明申し上げます。</p> <p>今、路線バスの現状についてお伝えしたところでありますが、路線バスについては周辺の関係市町村との兼ね合いもあって、今、町として方向性を示したとしても、協議がございますので、答えは出し難いところでもあります。しかし、利用の実態から見ますと手を加えるべきとも考えており、白河線、須賀川線、古殿線という本町にとって重要な部分は残して、それ以外につきましては、周辺と結ぶのではないとはなかなか言い難いところではありますが、町民の皆さんが必要としている交通のシステムに見直していく、というような考え方で今検討しております。</p> <p>ですので、少なからず広域利用という部分での視点も考えなくてはいけないですし、町民の皆さんが満足いくような新たな交通の導入も検討しなくてはいけないところで、今日はその辺の部分でお出しできないのが残念なのですが、次回以降に具体化して、次年度以降こういったものを導入に向けて進めていきたいというような提案をさせていただきたいと思っております。</p> <p>そのためには、事業者や行政や町民の皆さんそれぞれではなく、一緒になって利用促進に向けた取り組みもやっていくということ、さらには、そのような運行や取り組み評価し、見直していく機能を設定する、そういった3つのやり方で、交通・バス・鉄道・タクシーなどいろいろな資源を使って、もっと良いものにしていこうと考え、次年度以降進めていきたいと考えております。</p> <p>計画のポイントとしては、61ページをご覧くださいなのですが、今まで石川町では全線で12の路線バスを各市町村をまたいで運行させていますが、町民の皆様は『あんまり人乗っていないな』と感じられていたかもしれません。</p> <p>そのような中、12路線を各市町村をまたぐような路線バスとして維持するのがなかなか財政的にも難しい状況にあります。また、アンケート調査の結果等を見ると、どうも路線バスは非常に長距離を走っているものですからなかなか町民が買い物や通院に使うには使い辛いという実態が分かっています。</p> <p>このようなことから、今回ご提案したのは、12の路線バスを残すべきものは残して、それ以外の部分はどちらかというより使いやすい使い勝手の良い町内移動サービスに位置付けて、何かうまい運行方法を考えていきたいと思いますということとしています。</p> <p>本日は、こういった考え方で進めてよいか、あるいは進めるにあたってこうやればいいんじゃないかと、ということを議論しながら進めていければと考えています。</p>
吉岡副会長 (ふくしま自治研修センター)	<p>そうすると今日の資料だけじゃなくて、次回1月にももう少し具体的な提案を出していただけることになると思います。</p> <p>今日の資料を読むと、今説明していただいたように、広域の市町村をまたぐような広域の路線バスは現状維持でやっていこう、そして、町内の利便性の向上も考えようということだと思います。</p>

	<p>町内の利便性向上について 1 つ具体例があがっているのは 65 ページのところ、鳥内橋線の現状のルートの一部、人口密度が高いところを迂回するような形で、ルートを見直しましょうという提案でしょうか。これによって少し迂回することになりますが、この資料で見るとこのメッシュの中に数字が入ってますが、数字が濃い緑色のところを通るようなルートに変えていこうという提案をいただいている、ということでしょうか。</p>
事務局	その通りです。
吉岡副会長 (ふくしま自治研修センター)	<p>これは具体的な 1 つのご提案ということで、おそらく実際にはまた具体化していく上では、今の利用者の方々や運行している福島交通などにご相談をするということだと思いますが、そういった形で町民の皆さんの利便性を改善していこうという提案が出ているという風に思います。</p> <p>それからもう 1 つ、66 ページの方でコミュニティタクシーという考え方と、67 ページの方で買い物支援ということで挙げて頂いています。</p> <p>コミュニティタクシーの方は今の資料だと具体的にどうやるということまでは記載がないのですが、この辺を今後どうやって考えていくか、この協議会はおそらくとりあえず今年度で一段落だと思うのですが、もしこのコミュニティタクシーのようなことを考えていくのならば、もう少し時間をかけて検討していかないとイケないだろうと思います。その辺のタイムスケジュールをどういう風にするのが重要です。</p> <p>コミュニティタクシーっていうのがよくわからないと思いますが、要は、今の路線バスが与えられた形で走っているというところがありますが、地域の皆さんが実際に使い勝手の良いタクシーを利用するなりミニバスを利用するなり、自分たちでルートを考え、行政に投げていくというようなことです。ほとんどのケースがそれを地元のタクシー会社さんなり、あるいはバス会社さんなりに委託をする形で、新しく交通の便を作っていこうというような取り組みです。</p> <p>これを、山口市では、コミュニティタクシーという名称でやっています。</p> <p>ですから、今の公共交通の考え方と少し主体と客体と逆転して、中心はもう住民の皆さん・地域の皆さんが中心になって、自分たちの使い勝手の良い交通やルートはあるいは便はどういう風であるべきかを考えていくという考え方です。</p> <p>山口市は住民の取り組みを後押ししており、必要なお金は一定の基準を満たせば行政が支援をするというものです。基準は、収支率ということで、かかる費用に対してどれくらい収益が上がるのかという指標を用いています。山口市では、収支率 25%と 30%でありそのくらいの利用があれば行政が支援するというようなやり方です。</p> <p>こういったことが石川町でも可能なのかどうなのかということ少し時間をかけないと具体化できないというところがあるので、今年の計画でどういう風に具体化していくのか、あるいは来年以降どういう風に考えていくのを町の方で少し考える必要があると思います。</p> <p>また、67 ページの買い物支援ですが、これは行政に限らず、今地域の皆さんが中心となって行っているサービスで、主客が逆転する典型例です。</p> <p>健軍商店街はかなり有名な事例でいろんなところで紹介されているのですが、この健軍商店街に限らないのですが、地元の商店街の方々が買い物に来た方の利便性を良くするために、重いものを持って帰るといのは特にお年寄りが買い物して自宅に運ぶのが大変なので、それを代行サービスをしてくれるというシステムです。</p> <p>具体的には、商店街がタクシー会社に協力をいただいて、買ったものを持っていけば、商店街から頼まれたタクシー会社さんが、安いお金で自宅まで運んでくれるというシステムです。</p> <p>これは行政か何かの形で取り組むというよりは、むしろ商店街とか商工会とか地域の団体が努力をしてやって行く、そういうことで外に出なくても買い物ができる、例えば電話で注文したらそれを運んでもらうということも特にご高齢の方になるとそんな理由にもなってくる。この健軍商店街に限らず今、ご存じだと思いますがセブンイレブンとかコンビニさんもそういった買い物輸送サービスみたいなものをかなり始めています。ですから、今、公共交通ということで話題にしているの、なにかちよ</p>

	<p>っと近寄り難いテーマという印象を持ってしまうんですけど、公共交通という言い方ではなくて、町民の皆さんの生活の中で『移動』をどう考えていったらいいのかというところで、そこにバスがあったりタクシーがあったり、あるいは自前のいろんな考え方があったり商工会の協力があったりというような形で、自分たちの生活をどう豊かに作っていくのかということを考えて、そういう場だと理解いただくと少し皆さんの参加意識も変わってくるのだらうと思います。</p> <p>先ほど事務局からお話していただいたように、官民一体というような言い方をされるとよく分からないですけど、住民の皆さんが中心として考えて、そこに必要なお金を行政が支援してくれるという、そういう形でより豊かな移動しやすい環境、場合によっては移動しなくても生活ができる環境といったことを地域ぐるみで作っていきましょうよ、っていう会議を今やっている、そういう風に考えていただくとこの会議もまたわかりやすいのかなと思います。そういう方法が今日の資料の中に示されたということだと思しますので、身近な自分たちの足の便をどうするかという風に捉え直すと、また意見も出やすくなって来るのだらうと思います。理想的には、石川町に必要なかどうかということもあるのですが、山口市の例だと地域単位でこういう場が、自治体単位でできていて自治体単位でいろんな交通手段を考えていくというような考え方が盛んになっています。ですから理想的には住民の皆さんが各地域単位で、自分たちの地域はどうするんだ、どういう風に商店街の協力を得ようあるいは自分たちでできることをやろう、場合によってはタクシー会社さんの協力を得よう、あるいは福島交通にも一緒に入ってもらおう、そういうような場を作っていく形になると良いのかなと思うんですね。そんなことを今日の資料から感じました。</p>
<p>加納会長 (石川町長)</p>	<p>今、先生からアドバイスをいただいたんですが、皆さん、何かご意見等ございますか？</p>
	<p>たとえば山口市とか熊本市とか、人口が多いからできるでしょうが、石川町みたいな小さい町でどうなんでしょうね？あと何十年か過ぎれば1万4~5000になる町だというデータも出てるんですよ。実際、そういう状況の中で成り立つのでしょうか？経営がやって行けるのでしょうか？実際どういう人が利用しているのでしょうか？</p>
<p>事務局</p>	<p>山口市の人口は19万人で石川町の10倍ぐらい人口がありますが、19万人全員でコミュニティタクシーを考えているわけではなくて、山口市のある地区、自治体単位とかで考えられています。その自治会が何人かは分かっていますが、その単位であれば、石川町でも石川町にあった交通というのが考えられるという風に考えております。それは実際に地域に入ってみないとわからないと思うので、まずは地域に問題提起してみるとというのが大切なんじゃないかなという風に考えています。</p>
<p>吉岡副会長 (ふくしま自治研修センター)</p>	<p>一昔前は店舗の御用聞きで回ってくれて、今もありますけれど移動販売車のような形で田んぼなんかにお魚とか肉とか運んで配ってくれるシステムがあります。それも一つの方法だと思います。特に今回の震災の被災地などで仮設住宅にお住まいの方のところに自主的に移動販売車が回って、仮設の方々の利便性を良くしたという事例もあつたりします。</p> <p>今、質問があつたように、一番の問題は過疎地域とか人口の少ないところでこういう便をどう確保するかということなんです。これについては「絶対これがいい」という答えはなく、全国でいろいろ工夫しています。</p> <p>私が一番良いと思っているのは、山口県の郊外の地域に対してコミュニティタクシーだとかは割合都市部が多いのですが、グループタクシーとはさらに郊外部で利用されており、まだ全国的には普及していませんが、これから普及するだらうと思っています。</p> <p>グループタクシーというのは、コミュニティタクシーをさらに小さくしたシステムで、路線バスが行けないような小さな集落や、デマンドにしてもタクシーを出し難いような奥地のようなところでも、山口市がグループ単位で申請をしてもらって、市が一部補助金を出すというシステムです。</p> <p>例えば、市が、75歳以上の路線バスから1km以上離れた方で申請があつた方というような利用者を限定してタクシー券を配り、利用者はその300円券や500円券などを</p>

	<p>うまく使って、交通手段を利用する。利用者が一人で利用するよりグループになって使うことで費用を削減でき、ライフスタイルに合わせてサービスを利用でき、役場の方も予算が組める利点があります。</p> <p>加えて、タクシーの料金を役場で必ず負担するとしたら、上限なくタクシーを利用されてしまうと役場の方も予算が組めないですが、限られた方に対して年間何万円までというような券を渡すと、役場もその予算の中で運用することができるというメリットもあります。</p> <p>このようなグループタクシーという考え方は、役場は利用者全体の一部分を補助し、残りの部分は利用者が負担するが、お互いが工夫することで自己負担を少なくすることができます。過疎地で割合浸透しているのはこのようなグループタクシーという考え方が一つあるかと思います。地元のタクシー会社さんやバス会社さんも恩恵を受けますし、地元や地域を回る＝雇用につながるということもあります。</p> <p>このような例もあるので、皆さんでいろいろなアイデアを出して石川町に合ったシステムで、行政のお金を補助していただくのを考えてみるのも一つの方法です。その辺を考えていくのは役場だけではできないので、住民の皆さんに集まっていたいただきながら1年2年かけて、山口県の例でも住民の皆さんが何十回と会議を開いてやっとそういうシステムが出来上がったという経緯もありますので、そんなかたちで石川町でもやってみていいのかな、と思ったりします。</p>
加納会長 (石川町長)	他のございますか？
高原委員	<p>今の意見を聞いていますと、公共交通を利用する以外の事にも話題が発展していくんですよね。</p> <p>アンケートを見ても約半数の人が公共交通を重視していないとなっており、1人1台自家用車を持っているということであって、公共交通以外に石川町がどの辺を検討したらいいか、というのが出てくると思います。</p> <p>一つの例として、各病院が使っている送迎バスの連携、スクールバスの対応なども検討の資料にならないか、と思います。</p>
吉岡副会長 (ふくしま自治研修センター)	<p>本当に良いお話で、他の自治体で実施しているところもあります。</p> <p>病院バスを一般の方に利用いただくのもやっていますし、スクールバスも一般の方に乗っていただく例もあります。また逆に、路線バスに子供たちがスクールバス代わりに利用してもらっている例もあります。いろんな例がございますので、今ご提案いただいたように工夫の余地あります。</p> <p>当然それに伴って法的な規制などもありますので、役所と相談しながらできること、できないことを見極めていく必要があると思います。</p> <p>今は確かに皆さんまだお元気なので、アンケートなど見ると半数以上の方が自分の車で、歳に関係なく死ぬまで乗りたいなんて言う方もいらっしゃいます。しかし、私の義理の親父も86歳で、最近「クルマに乗るのが怖くなった」と言い、車に乗ることがなくなりました。また私も「心配だからもうクルマに乗るのを止めてほしい」と言うこともありました。これから益々そういう時代になりますので、今お話しいただいたようにバス会社さん・タクシー会社さんあるいはスクール利用だとか病院、自動車教習所の送迎バスもあるので、それらに一般の方も乗せてもらったり、観光地などでは旅館のバスに一般の方に乗っていただいたり、いろんな工夫の余地がありますので、地域単位・行政単位で話を進めていったら良いのではないと思います。</p>
加納会長 (石川町長)	他にございますか？
事務局	<p>今の話で、学校の方々が若干不安になられたかもしれません。というのは、どうしても町内移動軸を地域内で主体的に考えよう、というような説明の仕方になっていきますから、すぐに町内の地域内移動のために路線が減便もしくは廃止になって、生徒さんが通えなくなるのか、というようなご懸念を持たれてしまうような説明だったかもしれませんので、補足させていただきます。</p> <p>基本的には、需要のある部分については、あるいは代替の交通手段がなかなかまと</p>

	<p>まらないという形にならない限りは、路線は維持することを考えています。その中でご利用いただいている必要不可欠な利用者さんもいるとすれば、そこは当然視野に入れて進めることを考えており、だからこそ協議会に関係者の方々も入っていただいています。</p> <p>今はご意見出なかったですが先にこちらからお伝えしておいた方がいいかな、と。それについて何かご意見があればお伺いしたいと考えています。</p>
	現状を維持する、ということですか？
事務局	いえ。議論を重ねながら、新しい町内移動軸でもって出来て、なおかつ町内外へ移動する通勤通学の便が確保できるような、そういうものを調整しながら進めていくことを考えています。一度に、町内移動サービスに位置づけられた路線バスを一気に廃止するというものではない、ということだけを確認させていただきました。
加納会長 (石川町長)	この会議は今年度中にもう何回ありますか？
事務局	1月と3月の2回を予定しています。
加納会長 (石川町長)	1月と3月に協議会で議論して、どの程度まで詰めていく予定ですか？
事務局	<p>1月に計画の素案をお出しします。</p> <p>その後、2月に町民の皆さんに見ていただいてご意見をいただき、それを踏まえて、3月に最終版をこちらでお出ししてご承認いただく、というような流れを考えております。</p> <p>3月にどういうものができるかということですが、個別具体の実施計画までは行かないです。詳細部分は来年度以降検討を進めてまいります。大まかに、こういうことをしますというような、資料2の59頁に書いてある施策のもう少し詳しくなった解説が入った形のもの整理する計画です。</p>
吉岡副会長 (ふくしま自治研修センター)	結論は今年度には出ないということですね？
事務局	<p>具体的なことは26年度以降に出すことを考えています。</p> <p>今年度は頭出し的なものが65頁に書かれていますが、例えば鳥内橋線は石川町の中だけで完結しているので、地元の方や事業さん達といろいろ話して、これを一つのモデルとして手を入れていくという風なことを26年度に検討していくことを想定しています。</p> <p>一度に全部という訳にはいきませんので、それぞれの路線毎に何か良いものができるか、地元に入っていきながら、地元の方々と話し合いながら一つ一つ実証実験も含めて実施に移していく、というような予定です。</p>
兼平委員 (福島運輸支局)	鳥内橋線については26年度に検討して27年度からというような考え方になっているのでしょうか？
事務局	バスの仕組みとすれば10月1日か9月末という体制で動いていますので、そのタイミングで切り替えるということも考えられますが、未定です。
兼平委員 (福島運輸支局)	<p>今具体的に鳥内橋線の事など出ましたけれども、最終的には連携計画を作って26年度以降いろいろ具体的な検討をして、国の補助金を使うということで生活交通ネットワーク計画を作って、その計画に基づいて国のお金を活用していくという形になるかと思えます。そして、それを具体的にどのような内容で実施するのかというのが26年度検討することだと思えます。</p> <p>バスの補助金の考え方は基本的に10月から9月という流れになっていますが、26年度10月から27年度9月までの間に新たな運行を実施しようと思うと、生活交通ネットワーク計画は来年の6月までには申請しなければなりません。そうすると、今の流れで行くとたぶん6月末の段階で10月以降から具体化するの厳しいのかな、と考えます。その辺は運行計画の煮詰まり方を見ながら、いつの時点で国の補助金を</p>

	<p>活用するのかということ判断していただければと思います</p> <p>また、前回お話しした地域協働推進事業という今年から始まった新しい国の活用補助制度があって、今回出していただいた中に具体的な事例が出ていますが、地域協働推進事業を実施することについて触れていただいた方が今後実施する時に活用できるのではないかと思います。時刻表を作るといようなもので国の補助を受けられるのです。補助を受けるためには年間計画とか数値目標を明記しておく必要があるのですが、念頭にあるということに記載しておくとも良いと思います。</p>
加納会長 (石川町長)	他にございませんか？
本田委員 (県立石川高等学校)	<p>JR 水郡線の最終は 21 時半ぐらいだと思いますが、他所と比べて 1 時間ぐらい早いんじゃないかなと思います。10 時台の電車があってもいいんじゃないかというような話もあります。</p> <p>この協議会では、ダイヤの改正とか路線の変更とか提案していく場合に、例えば JR さんがどっかを削ってずらすみたいなことはできないものではないでしょうか。</p>
丹治委員 (東日本旅客鉄道株式会社)	一概にはいとは言えないのですが、車両や乗務員の関係なども考えて現在のダイヤを組んでおり、いろいろな方から要望は挙がっているのですが、時間帯をもう一本増やすというのはまだ実現できないです。
事務局	10 時台も利用したいという要望があるということですか？
本田委員 (県立石川高等学校)	<p>あります。</p> <p>例えば町内でお酒飲む場合、9 時台というのはちょっと早いというのがあります。それに、いろんな影響あると思います。例えば旅館に泊まるお客さんは、逆に最終の便が増えることによって飲食店がはやるかもしれないですし、利害の対立みたいなことも出てくるかもしれません。</p> <p>また、先ほどの 12 路線を維持するかどうかという話もあったのですが、県立学校で試験受けて合格・不合格というのがありますので、毎年この地域から何人程度の利用客が生まれるかどうかというようなことは全然予測ができませんが、ただこの路線が走っているから試験受けたのに翌年から無くなりましたというのともかわいそうな感じもします。ある程度、安定的に通勤通学の時間帯は確保しておいた方がいいと思います。</p>
加納会長 (石川町長)	事務局で何かお伝えすることありますか？
事務局	一つの考え方として、地域内のフィーダー交通として新しい補助金をもらいながら運行するという方法もあるのではないかと考えています。そこは利用実態を見ながら、先生がおっしゃったようなことは当然視野に入れながら検討していきたいと考えています。
加納会長 (石川町長)	他に何かございますか？
江見委員 (石川県立養護学校)	<p>養護学校ですが、資料の 48 頁と似たような話になりますが、養護学校で部活動が終わった後、帰るバスの 4 時台の後半が抜けているので子供たちが帰れない状況です。</p> <p>この辺の状況を検討していただけたらと思います。</p>
佐藤委員 (福島交通株式会社)	<p>新白河・石川線につきましては、バスのやりくりもあって、利用者や周辺の利便性も考えて、ちょっと難しい問題ではありますが、可能な限り考えていきたいと思っています。</p> <p>利用者がどのぐらいなのか実態も分からないので、私どもとしましても、養護学校と詳細をご協議させていただければと思っています。</p>
加納会長 (石川町長)	<p>バスは、利用者がいて初めて運行するのであって、バスが運行するから利用者が生まれることではないと考えます。お客さんがいなきゃいくら走ったってダメだということをよくご理解いただきたいと思います。</p> <p>他にございませんか？なければこの辺で終わります。</p> <p>それでは、長時間にわたりましてご意見等いただきましてありがとうございました。</p>

	なお、次回につきましては今日のご意見等を参考にしながら進めていきたいと思 います。それでは今日の会議はこれで終わりにしたいと思います。
--	--

4. その他

5. 閉会